

# 入院中にステロイドの経口・静注処方された小児喘息

## 患者の割合

### QI項目の解説

「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2012」において、喘息発作の強度に応じた薬物療法が基本治療（ステップ 1）となります。吸入ステロイドの処方ステップ 2 以上となります。薬物療法は、早期に十分な効果が得られたのちに良好な状態を維持できる必要最少量まで徐々に減量するほうが、患者の生活の質（QOL）の向上のためには望ましいと考えられています。

本指標では、より高い値が望ましいとされています。

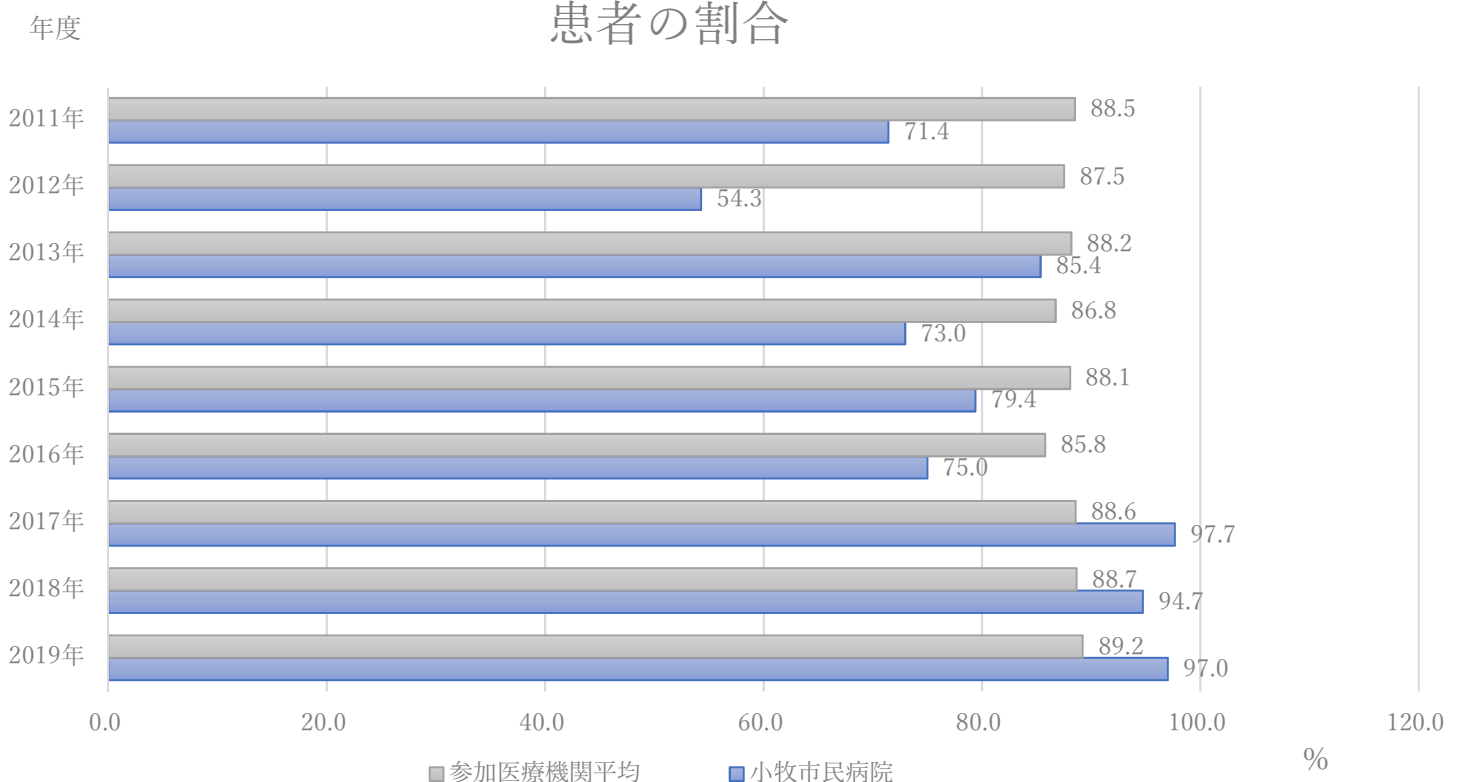
### 入院中にステロイドの経口・静注処方された小児喘息患者の割合

#### QI指標の定義・計測方法

分子:入院中にステロイドの全身投与(静注・経口)を受けた患者数 ×100 単位 (%)

分母:2歳～15歳の喘息患者のうち、喘息に関連した原因で入院した患者数

## 入院中にステロイドの経口・静注処方された小児喘息患者の割合



## 2019 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

2019 年度は参加医療機関平均との比較で投与割合は上回っている。重症度に応じて積極的に投与する傾向があったためと考えられます。

## 2019当院データと2018当院データとの比較・原因分析

2018 年データと比較して割合は上昇しました。理由として、ガイドラインに準じた治療を行っていることによるためと考えます。

## 数値改善に向けた今後の取り組み

指標数値については、特に問題ない数値です。今後も現状を維持できるようにします。

## 2018当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

患者の重症度、年齢などを考慮した上で、今後も同様の治療を行います。